

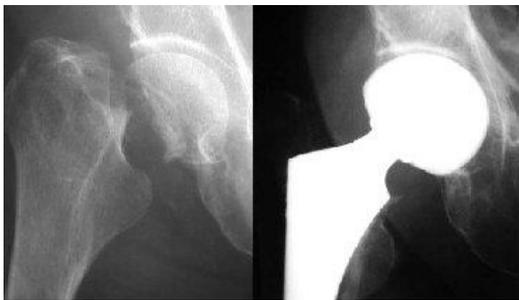
整形外科は、運動器（骨・関節・脊椎等）の障害を治療する科で、内訳は骨折・脊椎・膝が三大疾患となっています。当科では、全ての整形外科疾患に対して、最新の治療法を行っています。

高齢者の骨折で、頻度が高いのは、大腿骨近位部骨折と脊椎圧迫骨折です。

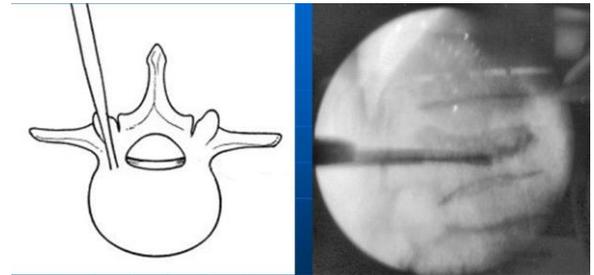


大腿骨近位部骨折は転子部骨折と頸部骨折に分けられて治療します。

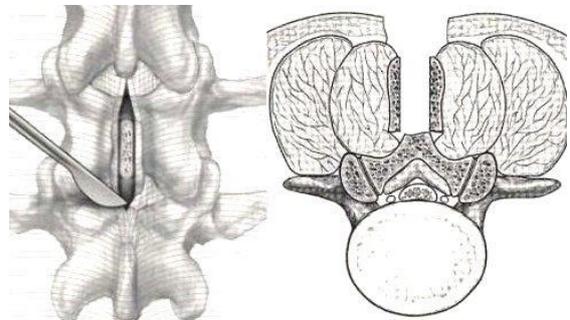
大腿骨転子部骨折には手術用ナビゲーションシステムを用い、安全で、正確な治療を心がけていますので、翌日から、歩行練習を開始し、退院まで2週間を目標にしています。



大腿骨頸部骨折は転位のあるものは、人工骨頭置換術を行います。転子部骨折と同様、翌日より歩行練習を開始し、2週間での退院を目標としています。

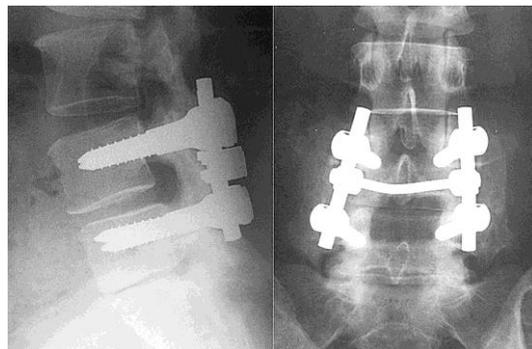


脊椎圧迫骨折に対しては、ポータブル透視撮影を用いて、小切開で椎体形成を行い、痛みを早期に軽減できますので、翌日より歩行を開始しています。

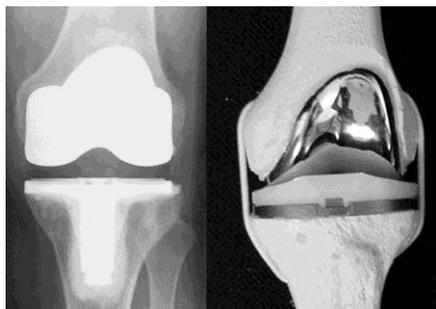


顕微鏡下腰椎椎弓形成術、頸椎、胸椎、腰椎のほぼ全ての手術に対面式顕微鏡を使用して、筋肉を温存し、術後の神経合併症を予防しています。

腰椎すべり症等の不安定性を伴う場合には、顕微鏡下の除圧手術に加え、固定術を要する事も有ります。



変形性股関節症に対しては、50才以下の年齢に対しては、骨切り術等の自家骨を利用した手術を行います。50才以上では、早期荷重が可能な、人工股関節置換術を行っています。低侵襲で行いますので、術後は2週間で歩行退院できます。



高齢者の変形性膝関節症に対しては、人工膝関節置換術を行っています。原則として、骨セメントで固定しますので、翌日より歩行練習を開始して、2週間には退院出来ます。



内側・外側に変形が限局している場合は、単顆型人工膝関節置換術が可能ですので、術後の疼痛が少なく、関節可動域が良好です。